

「やろ！ Myふじおか」

“人を育て 人が育つ 創造のまち”を実現する



基本方針1 ひとりひとりが夢を持って活躍できるふれあいのまち（教育）

(1) 地域を担う人づくり

- ア 伝統文化の保存と継承（伝統文化の保存継承に繋がる人づくり・名所旧跡、郷土の歴史の保存継承）
- イ 幅広い人材発掘と活用（わくわく事業の活用促進・地域リーダーの発掘、育成・人材バンクの検討）
- ウ 各種研修や講座の実施（交流館講座及び実習機会の充実）

(2) 夢を持てる生きがいづくり

- ア 夢の実現への支援（多様な夢を持つためのきっかけ作り）
- イ 高齢者が元気なまち（子どもの登下校見守りなど地域ボランティアの機会づくり・農産物直売所の活用）
- ウ 健康サポートの工夫（ウオーキングコースの設置活用・軽スポーツの普及）
- エ 開かれた学校の実現と支援（「おらが学校」意識向上・学校での学習支援・学校花壇や地域花壇の充実・放課後児童クラブの条件緩和）

基本方針2 美しい川と里山に囲まれ、地域で支えあう安心安全なまち（環境）

(1) 自然環境の保全

- ア 美しい里山の再生（里山林の整備、再生・ゴミ不法投棄の防止）
- イ 水に親しむ環境づくり（子どもが遊べる川づくり・ホタルが住める川づくり）
- ウ 獣害対策の拡充（有害鳥獣駆除への支援）

(2) 生活環境の充実

- ア 交通環境の整備（交差点や歩道の改良・安全な通学路の確保・交通安全意識の啓発・バス利便性の向上）
- イ 地域防犯力の向上（自主防犯会への支援・危険箇所の対策・見回りパトロールの強化・意識啓発と防犯用具の活用）
- ウ 防災体制の強化（自主防災会や消防団の活動支援・災害に対する意識啓発と家庭の備えの充実・要援護者の支援体制）
- エ 地域で支えあう子育て（安心の遊び場の充実・見回り、育児相談ネットワークの推進）
- オ 高齢者の生活支援（生きがい、社会参加の機会創出・見守りネットワーク・集まれる場所づくり）

基本方針3 地域資源を活かした、持続可能な活力あるまち（地域活性化）

(1) 地域資源の活用

- ア 石畳ふれあい広場の拡充（地域の交流拠点としての施設整備・健康増進イベントの検討）
- イ わくわく事業による地域活性（わくわく事業のPR・わくわく事業団体の発掘、育成・わくわく事業団体間の連携強化）
- ウ 藤岡の自慢できるものづくり（ふじのあるまちづくり・ふじおか特産品の開発・あらゆる世代が参加できる話題イベントの検討）
- エ 地域情報の発信、共有（地域情報をまとめた冊子づくり・地域イベントで活用できるPRグッズの検討・ITによる情報発信の強化）

(2) 過疎対策(定住対策)

- ア 藤岡への人口流入の推進（地域での新しい雇用創出の検討・空き家など入居可能な住宅の活用の検討）
- イ 便利で生活しやすいまちづくり（買い物しやすい仕組みの検討・救急医療体制の検討・自治区活動の活性化）

自治区や各種団体から、様々な声(主な意見)をお聞きしました

自治区や所属する団体の中で、よく話題になること

- ・一人暮らしの高齢者、若者の転出、空き家の増加について
- ・地域内にある地震危険箇所、土砂災害危険箇所について
- ・イノシシ被害について
- ・交通問題(危険な通学路、朝夕のラッシュなど)
- ・住民が集まる機会、イベントが少なくなってきたこと
- ・公民館の利用や、設備の充実(災害に対応できる施設にしたい)
- ・危険な箇所に設置してある信号機について
- ・田んぼの水の管理、耕作放棄地の増加、ゴミ捨てマナーについて
- ・認可地縁団体の設立について
- ・地域内にある使用されていない市有地の有効利用について
- ・青少年の育成、地域で活躍する人材の育成について
- ・公共交通(おいでんバス、ふじバス)の運行について
- ・ふじの植栽について
- ・中学校単位のコミュニティ会議への参画

いまの団体(自治区)の体制で、やりたくてもできないこと

- ・仕事やライフスタイルの多様化による地域行事の開催の難しさ
- ・自主防災会、自主防犯会の活動の維持
- ・高齢化による河川美化、草木伐採などの地域活動
- ・地域の問題や行事について無関係、無関心の住民が増えてきた
- ・子どもたちの遊び場の整備、河川愛護活動
- ・防災訓練の拡充
- ・自治区行事が開催できる場所の確保
- ・寺社の維持管理
- ・ボランティア団体の育成
- ・通学路上の支障木の伐採、ウォーキングコースの環境美化
- ・遺跡の復元と活用、川口やなに対する自治区協力体制
- ・住宅増加に伴う連絡体制の不備
- ・大きな予算が必要な工事、修繕
- ・通学路のガードレールや防犯灯の設置

団体(自治区)の中で、長い間困っていること

- ・地域行事に参加できない住民が増え、住民のまとまりがなくなってきた
- ・各種団体やコミュニティにおける後継者不足
- ・通学路の整備(歩道が少ないなど)
- ・少子化問題による小学校の存続
- ・個人情報保護の観点から、住民の情報を得るのが困難になってきた
- ・駐車場の確保
- ・近隣自治区と話し合う場がない
- ・高齢者のライフライン、救急医療体制、日常の買い物の不便さ
- ・部落放送の改善
- ・浚渫工事が自治区の一部でしかされていない
- ・自治区役員の後継者不足
- ・私道の市道化
- ・自治区名義の墓地、公園、神社参道、ゴミステーション等乱開発のツケ

将来、団体(自治区)が発展していく上で必要なこと

- ・藤岡支所付近(藤岡飯野町)の魅力向上
- ・まちおこしイベントの開催、近隣の自治区との交流
- ・自治区単位の再編
- ・自治区、地域会議、市議、コミュニティ、行政などの連携
- ・自治区への関心と参加、若い世代による自治区運営、まちづくり
- ・今以上の住民の区政への協力、まちの将来像を住民が共有すること
- ・公民館での健康づくり(スポーツジムとして)
- ・自治区活動の維持、自治区活動の若い担い手(30歳代)
- ・藤岡プラントの焼却熱の有効活用
- ・ふじの回廊への投資
- ・高齢者の社会参画、安定した収入の確保
- ・住民や企業、学校など各種団体との連携
- ・自治区広報の充実

10年、20年後の藤岡のまちづくりに欠かせないもの

- ・生活基盤(安定した仕事、収入)、生活インフラの充実
- ・バス路線の拡大や歩車分離型道路などの交通インフラの整備
- ・高齢化対策(定住促進、独居老人のサポート、交通網の整備など)
- ・安心安全で協調性のある社会、高い防災意識と十分な備え
- ・地域住民がいつでも集まって活動、勉強できるスペース

- ・里山をはじめとする豊かな自然環境
- ・各年代が生き生きと暮らせる地域づくり、スポーツ事業の推進
- ・藤岡の地域核(藤岡飯野町)の活性化
- ・若い人の力、地域の絆
- ・自治区での各種活動を推進する団体